2007年（平成19）4月

カルメル 霊性センターニュース

ブラウン《弟子の足を洗うキリスト》

220号

「私の記念としてこれを行いなさい」

カルメル会　中川 博道

先日、上野毛のカルメル会聖堂で、新司祭が誕生する叙階式が行われ、その荘厳さと、人々の熱意に打たれました。

式中、私が着けていた祭服には、伝統的に聖体の秘跡の象徴として受け止められてきた“飢えたペリカン母子”の図柄が美しく描かれていました。これは自分の胸をくちばしで突いて血を出し、自分の血を飲ませて飢えたひな鳥を養う命がけの母鳥の姿です。人が考えうるかぎりの、自分を与えて他者を生かす“愛”の象徴です。

叙階の秘跡は、ひとえに「これをとって食べなさい。これは私のからだ。」「これを受けて飲みなさい。これは私の血の杯。これを私の記念として行いなさい」と、あの母鳥に象徴される“ご自分を食べさせ飲ませ続ける主の関わり”を、今ここで生きているものとして現実化することへの奉仕です。

イエスは、ご自分のこの思いが世界中で絶えず見えるものとして現れ、わたしたちが味わい受けることをお望みになって、司祭を立てられたのでしょう。

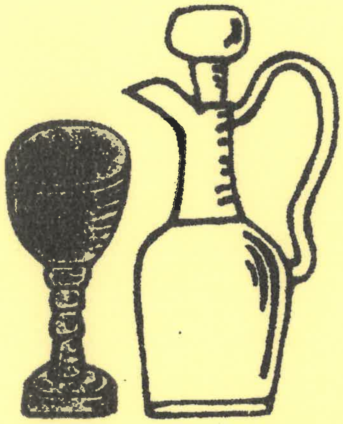
40 万人余りの司祭たちは地球上で、毎秒 4～5 回のミサをささげ続けて、主のこの愛を世界に溢れ出させつづけます。

私たちが、もしそれぞれの人生にいつもいつもこのように関わっておられるお方を見出すならば、私たちの命は輝きます。それは、主の死を持って自分が真に生きはじめることです。

「私の記念としてこれを行ないなさい」と迫る主の思いは余りに深く、尊いものです。

過ぎ越しの祭りを祝いながら、私たちが主に生かされる復活を喜びあうことができますように。

心　の　泉



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd
——現代の十字架の聖ヨハネ——
帰天４０周年にあたって　（5）

はるか前から
わたしは愛の霊に　とらえられていた
わたしの聖性とは
わたしのうちに住まわれている聖霊を信じ
その霊に
全く自分をゆだねることである

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ　ocd

このページが繰られる頃は、きっと暖かい太陽に木々の芽は膨らみ、硬く閉ざされていた土から「新しいいのち」が顔をのぞかせ、春のおとづれを感じさせてくれるころでしょう。もうご復活もすぐそこです。毎年こうして自然界の「いのち」の饗宴のうちに私たちはご復活を祝います。新学年、入学、入社など新しく始まる何かへの希望に心を膨らませ、どうじに未知の世界への不安が入り混じるときかもしれません。

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師がこの世の生を全うしたのは、ちょうど四十年前ご復活の月曜日でした。キリストの罪と死への「いのち」の勝利を祝った翌日はいのちの聖母にささげられた祝日です。生涯にわたって、聖霊と聖母の恵みに強くとらえられていた師は、「私の聖性とは、私のうちに住まわれている聖霊を信じ、その霊にまったく自分を委ねることである」と言っていました。師は叙階前の黙想中に十字架の聖ヨハネの著作と出会い、決定的にカルメル会へと導かれ、その後もいろいろな出来事を通して働かれる聖霊の導きに忠実でした。この忠実さを師は聖母に祈り、深めていきました。

私たちが、聖霊の望みに忠実に生きれるように聖母よ、助けてください。
あまりにも弱い私たちの信仰を強め、暗黒を通り抜け、さまざまな苦悩を超えて神にいたり、神を信じることができるように。
今ここに、あなたが私に期待される愛をささげます。
今日も、そして明日も、最期の息をひきとる時まで、この愛に忠実でありますように。　　——幼きイエスのマリー・エウジェンヌの祈りより

私たちも一人ひとりの生活の重みを、聖母に支えられながら聖霊の導きにゆだねて日々生きていきますように。

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

断想（２１２）　若き日のノートより

奥村一郎

自然のうちに　感動を見出すことができなくてはならないと
ロダンは言った。

感動の喪失、神秘の感覚の喪失と同時的なものだ。

自然を越えて、自然を生かし、人間の歴史に感動を見出し得るなら
それが、キリストのまことの世界を見るということなのだ。

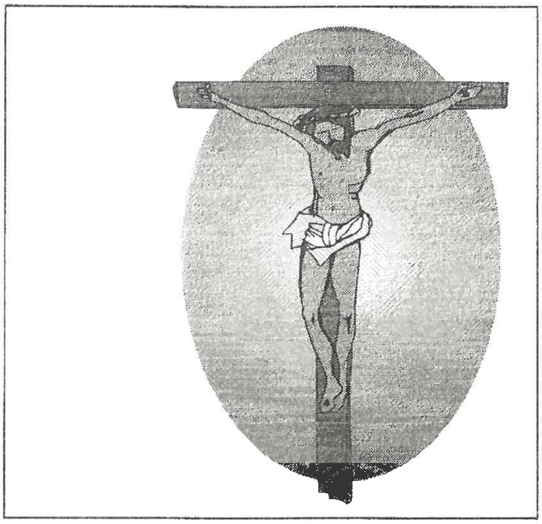
宗教というような　まっこうくさいものではない。聖書をいじくり
まわして、出てくる　まじないのようなものでもない。

人間の涙と　苦悩と　失敗と　惨めさとかが織りなす歴史の中に、
一すじの光りが　たえまなく流れていくのをみてとること、
そして、その光りを伝えていくことがキリストを生きることなのだ。

仏陀には、地底に脱け出る無限の感動があった。

キリストには、地上の葛藤の中にたえず愛を呼びさまそうとする
神の痛みの歌がある。

ヘンリ・ナーウェンの
『旅路の糧』
(98)



イエスは世の中にいるが、世に属していない

真福八端は、イエスの自画像を示しています。最初それは、とても私たちの心を引きつけるような像ではないように見えます。だれが貧しいこと、悲しむこと、迫害されることを望むでしょうか。だれがほんとうに柔和で、憐れみ深く、心清く、平和を築き、常に正義に関心を持っているのでしょうか。ここには現実主義があるのでしょうか。この世を生きのびること、そのためにこの世のやり方を利用することは不必要なのでしょうか。

イエスは私たちに、*世に属することなく、世の中にいる*という道を示しています。私たちが自分の人生をイエスの人生に合わせる時、新しい世界が私たちに開かれてくることでしょう。天の国は私たちのものとなり、私たちは地を受け継ぐ者となるでしょう。私たちは慰められ、満たされ、憐れみを受けるでしょう。そうです。私たちは神の子と呼ばれ、死後においてではなく、今ここで、真実、神を見るでしょう（マタ 5：3-10)。それは、イエスの人生にならって私たちの人生を形作ることに対する報いなのです。

(0601)

キリストを着ること

信者であることは、キリストを着ることを意味します。パウロはこう言っています。「洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです」（ガラ 3：27)。そして「主イエス・キリストを身にまといなさい」（ロマ 13：14）と。この「キリストを着る」ということは、私たちの惨めさを覆うマントを身にまとう以上のことです。それは、パウロと共に次のように言うことができるほど全体的な変容のことを言っているのです。「わたしは、キリストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」（ガラ 2：20)。

こうしてわたしたちは、この世において生けるキリストなのです。人となった神であるイエスは、私たち自身の肉においてご自身を現し続けています。実際、真実の救いとは、*キリストとなること*だからです。

(0604)

九里（くのり）　彰訳

『必要なことは、ただ一つだけ』(23)

ルドルフ・V・デ・スーザ　OCD（カルメル会）

神の愛は、具体的な慈しみの行為によって、隣人への愛の内に示され、実践されます（1ヨハ 4:19～21)。それゆえイエスは、弟子たちにこう言ったのでした。「わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたもわたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。･･･互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」（ヨハ 15：10,17)。

聖パウロは、エフェソの人々にこう書いています。「立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履き物としなさい。なおその上に、信仰を盾として取りなさい。それによって、悪い者の放つ火の矢をことごとく消すことができるのです。また、救いを兜としてかぶり、霊の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。***どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい***」（エフェ 6:14-18)。

祈りは、単に何かを言うことでも、聖句を黙想することでも、東洋や西洋の方法やテクニックを使うことでも、事柄や人物を想像することでもありません。祈りが生活となり、生活が祈りとなる時、私たちは祈りのほんとうの意味を理解し始めます。私たちは感覚を通して、身体を通して、出来事を通して、私たちの生活そのものを通して祈ることができます。祈りは、イエスの生涯においてそうであったように、すべてを統合する体験であるべきです。イエスにとって、彼のまわりで起きたことは、すべて祈りだったのです。

最後に私たちが理解しなくてはならないことは、次のことです。祈ることが少なければ少ないほど、福音が要求しているリスクのある、骨の折れる、しかしやりがいのある人生を生きることはますます難しくなるということです。逆を言えば、私たちの人生に問題が少なければ少ないほど、祈ることはますます少なくなるということです。

6．幸福への十の道

アラン・ウオッツは、かつてこう言いました。「偉大なキリスト教の芸術家のだれ一人、笑っているキリストを描きませんでした」と。私たちキリスト者は、神性の概念や表象に関してより厳格に取り組んできたからです。「涙の谷」についてあまりにも過度の関心を示し、「死の時」の準備をしてきたようです。それは、神性や命への私たちの歩みを悲観的なものとしてきました。私は、だれかが大胆にこう言っているのを聞きました。「幸福への道などないのだ。というより、幸福が道なのだ。あなたが幸せでないなら、まわりの人を幸せにはできない。幸せなら、何の努力をすることもなく、まわりの人を幸せにできる。幸せは伝染する。すべての人をほっとさせ、居心地よくさせるからだ」。

てんてこ舞いになっている自分の状態をよく見てください。あなたが仕事を忘れたり、帰りの電車に乗り遅れたり、会社や共同体に緊張があったりすると、それはほんとうにあなたをぐったりとさせます。一秒ごとに悪くなっていくように見える日々のために、あなたは安全弁を持っているでしょうか。あなたの心身をストレスから解放し、リラックスさせ、幸せになる方法について、何らかのアドヴァイスをほんとうに使うことができるのでしょうか。実際、厳しい状況にどのように対処すべきかを知ることは、戦いに半分勝ったということでしょう。

自分を幸せにするヒント

1．あなたの体を動かすこと

テレビを見ている間、椅子からソファーへ移ることは、身体的にそれほど能動的な運動ではありません。家の片隅から他の片隅へ移動することも、体操とは見なされません。身体的活動は、ストレスを解消する最も重要な方法の一つです。それはあなたの頭をすっきりさせ、心を高揚させるからです。身体的活動は、エンドルフィンという体内に「快い感じ」を起こす化学物質を増進させます。これはあなたを自然に幸せな感情に導きます。毎日のほんの少しの体操が、たくさんのストレスを軽減し、曖昧模糊となり硬直した精神をときほぐしてくれるのです。(続)

九里（くのり）　彰訳

復活の主日
「キリストはよみがえられた」 アレルヤ !!!

（ヨハネ２０：１ ～ ９）

キリスト教は、復活の宗教です。復活されたキリストが私たちの日没のすべてを夜明けに変えてくださることを信じます。復活の主日に、新しい生命のしるしに気づかされます。人々は新しい火を灯し、賛美歌をうたい、ろうそくに明かりをつける準備に来ます。様々な色の新しい服、そして多分新しく生まれた子供の洗礼。けれども、私たちはこれらのしるしを読み違えないようにしましょう。これらはイエスがかつて死者の中から復活されたことのしるしであるだけでなく、イエスが再び復活されていることのしるしでもあります。イエスは私たちひとりひとりの中に復活し、神の民の肢体の中に復活し続けてくださっています。「キリストとともによみがえった」（コロサイ３：１）ということばが何かを意味するとすれば、復活という銀の糸が私たちの時代の信仰者たちを通り抜け、彼らを神との新しい関係に対してまた他者との新しい愛の絆に対して解放し、彼らに新しい方法で人間の可能性を認識させ、人間生活の闘いや試練、困難や苦しみを通して打ち勝つまで彼らを支えてくださるということを意味します。

今日、復活への信仰はイエスの死に対する勝利と飛翔、また永続する現存を断言するだけでなく、福音の中のイエスのことばやおこないに戻ろうとする召出しでもあります。復活のメッセージは、古くても、新しくても、キリストが死者の王国に住んで「ここ」におられるということではなく、死の力をからにしてくださっているということです。今日カトリック教徒は、私たちの文化に滲みこんでいるあらゆる形の死や暴力に抵抗し、この勝利を生き、宣言し、祝うように召されています。イースターの季節に私たちの家庭や教会を飾る「花」は、死んで形を変えた種子から生まれ出たものです。キリスト者として、生命は十字架の神秘を通して花開きます。復活の続唱のことばは、このことを美しくとらえています。「生命と死は驚くべき闘いに閉じ込められています」（Mors et vita duello conflixere mirando）。闘いは持続し、最後に勝利が確実なものとなります。「いったん死んだ生命の導き手は、生きている者として統治しています」（Dux vitae mortuus regnat vivus）。

よみがえられたキリストにおける、すべての親愛な私の友人たちへ!!!
イースターを心から嬉しく、お喜び申し上げます!!
イエスといっしょに新しい生命によみがえりますように。
アーメン、アレルヤ!!!

（Sr. Paulina）

復活節第3主日

イエスはペトロに言われた「わたしの子羊を飼いなさい、わたしの羊を飼いなさい。」

(ヨハネ　21-1～19)

今日の福音はイエスとイエスの弟子たちとのティベリアス湖畔での会食という歴史上唯一の教皇選挙を提供します。それは二つの場を披露します。第一の場に於いて復活されたイエスは弟子たちに現れ彼等の使命を奇跡的な大漁によって示されます。

イエスの愛されたあの弟子は岸に立っておられる姿をイエスだと最初に気付きました。これは愛が何にも勝ることを示しています。「主だ」と聞くとペトロは湖に飛び込みほかの弟子たちは 153 匹もの魚でいっぱいになった網を岸に引いて来ました。153 それは2000 年の間様々の変化に富んだ広い考察がなされてきた数です。例えばアレクサンドリアのキュリロスはこの数を、100 を異教徒、50 をユダヤ教徒の残りの者そして 3 を三位一体を示す数に分けました。ドイツのルペルトゥス　は 100 を既婚者、50 をやもめ、3 を乙女とみなしました。現実的に言えば聖ヒエロニムスはギリシャの動物学者が 153 の魚の種を数えていたことに注目しました。数の遊びはこのくらいにして、魚を漁ることは一般に弟子たちの宣教活動を象徴しています。ヨハネが主に強調したことは魚でいっぱいになっても破れないで膨れ上がった網です。それは弟子たちの使命が包括的、全世界的なものであることを象徴しています。イエスは弟子たちのためにパンと魚の朝食を用意し、聖体祭儀のようにパンを裂き弟子たちに与えられます。この部分の大事なことは、福音を広め聖体祭儀の交わりの一致に集うことを弟子たちに委託するため復活されたイエスが再び来られたことです。

第二の場はイエスとシモンの対話に凝縮されます。三度イエスを否定したシモンは三度イエスを愛しているかと尋ねられます。二度の愛の告白宣言の後ですらとても悲しくなっていたペトロに三度尋ねられてからイエスはシモンに「わたしの子羊を飼いなさい。わたしの羊の世話をしなさい。わたしの羊を飼いなさい。」とその使命を委託されます。イエスはペトロの殉教を予言されますがこの時はただ「わたしに従いなさい。」とだけ言われました。

今日の福音は現代の教会に語りかけられています。キリストの弟子たちの共同体は全体的に宣教活動に力を注いでいます。イエスに愛された弟子はその愛がイエスを見抜く力を与えた忠実な証人です。またペトロは罪に陥りましたがイエスへの愛によって司牧権を与えられました。友情で結ばれた共同体のリーダーはその愛の純粋さによって選ばれ、殉教にまで追い込むような無情な世間にいる傷つき易い子羊や羊たちの世話をし養育するという最も重要な使命を与えられました。

(Sr. Paulina)

今日の歌

1　私の命(いのち)はただの一瞬(ひととき)　過ぎ行く一刻(ひととき)
私の手から滑り落ち　逃げ去って行く　たった一日
あなたは御存知です　お丶　私の神よ！
この世であなたを愛するために
　　　　私には今日だけしかないことを！……

2　お丶！　私はあなたを愛します　イエズスよ！
あなたの方に私の魂は吸いよせられる
ただ一日のためにだけ　私の優しい支えとなって下さい
私の心に来て治め　あなたの微笑みを私に与えて下さい
　　　　ただ　今日のためにだけ！

3　将来(あす)は暗いでしょうか？　それでもかまいません　主よ
明日のために祈る……
お丶　いいえ　私にはそんなことはできません！……
私の心を清く保ち　あなたの陰で覆って下さい
　　　　ただ　今日のためにだけ

4　明日を想うと　私は自分の変わり易さを恐れ
私の心の中に　悲しみと倦怠が生じるのを感じます
けれども私は心から望みます　私の神よ　試練も苦しみも
　　　　ただ　今日のためにだけ

5　私はあなたを見るはず　もうすぐ　永遠の岸辺で……
お丶　神なる水先案内よ！　その御手は私を導く
荒波の上に　私の小舟を導いて下さい
　　　　ただ　今日のためにだけ

6　あゝ！　私をして　主よ
あなたの御顔のうちに隠れさせて下さい
そこでは　もう世の空しい騒音（さわぎ）を私は聞かないでしょう
わたしにあなたの愛を下さい
あなたの恵みで覆って下さい
ただ　今日のためにだけ

7　あなたの御心の側近く　過ぎ去る一切を忘れて
私はもう　夜の恐怖を恐れません
あゝ！　私に与えて下さい　イエズスよ
御心の中に一つの場所を
ただ　今日のためにだけ

8　活けるパン　天のパン　神なる聖体
おゝ　聖なる神秘よ！　それは愛が創り出したもの……
私の心に住まいに来て下さい
イエズスよ　私の真白いホスチアよ
ただ　今日のためにだけ

9　あなたと一つにならせて下さい
聖（きよ）く　聖なる葡萄の樹よ
そうすれば私の弱い枝は　あなたにその実を与え
真紅の房をあなたに捧げることができるでしょう
主よ　もう今日から

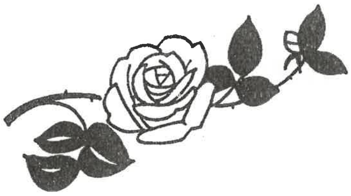
10　この愛の房は　一粒一粒が霊魂でできていて
この房を形作るために
私には去り行くこの日しかありません
あゝ！　私に与えて下さい　イエズスよ　使徒の炎を
ただ　今日のためにだけ

11 お丶　汚れなきおとめ！　あなたなのです
私の優しい星よ
私にイエズスを与え　私を彼と一つにさせるのは
お丶　御母よ！　私を憩わせて下さい
あなたのヴェールの下に
ただ　今日のためにだけ

12 私の聖なる守護の天使よ　私を覆って下さい
あなたの翼で
あなたの火で私の歩む道を照らして下さい
私の歩みを導きに来て下さい……私を助けて下さい
私はあなたを呼びます
ただ　今日のためにだけ

13 主よ　私はあなたを見たい　覆いもなく　雲もなしに
でも　まだあなたから遠く　島流しの地にあって
私は焦がれています
あなたの愛すべき御顔が
私に隠されることがないように
ただ　今日のためにだけ

14 私は飛び立ちます　もうすぐ
あなたの賛美を告げるために
暮れることのない日が　私の魂の上に照り輝くとき
その時こそ　私は歌いましょう　天使らの竪琴で
永遠の今日を！……



テレジアの詩（サンパウロ刊行）伊庭昭子訳より

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

15. 福者フランシスコ・パラウ（1811－1872）―― カルメル宣教修道女会 創立者

福者フランシスコは、1811 年、レリダ、アイトナの貧しい農家に生まれた。1828 年、レリダの教区神学校に入学、3年間を勉学に過ごし、この期間の終わりに、バルセロナの跣足カルメル会神学校に入る決心をする。そこで修道服を受けるが、当時は教会が大迫害を受けていた時代であり、着衣後、ほどなくして、共同体の生活を続けることはできなくなった。1836年にバルバストロにおいて司祭に叙階されるが、カルメル会の修道院の中で生活することは二度とできなかった。10年以上にわたってフランスに追放されていた間、福者フランシスコは、厳しい隠遁的生活を送った。宗教教育や、宗教に干渉する市民的、軍事的権威に対する抵抗に関わったため、1860 年までイビザに流刑となる。この期間に彼は深い暗夜を体験した。孤独によって、彼の精神は、目前に控えている事がらに直面する力で満たされたのである。1860年7月に、イサベル女王の命令によって解放され、活動を再開したが、ホルタのサンタ・クルス、バルセロナ、エル・ヴェドラ、イビザの洞穴にあったような孤独の静かな時は得られず、要理教育、多数の著作――その著書は今日でもまだ出版されている――、悪魔祓い、修道会の創立のために奉仕した。福者フランシスコは、スペインにおいて信仰を復興する必要があることを知り、この目的を確実に達成するために祈るカルメルの兄弟姉妹たちの修道会をも創立した。これらの修道会は、かつて、アビラの聖テレジアが行ったのと同じように、改革されたものであった。彼は、多くの病人たちのために、司祭に権威を委ねられている悪魔祓いの祈りをおこなった。カルメル会士として、彼はエリヤの足跡に従って生き、多くの病人が癒されたが、不法な医療行為を行ったとして、当局から疑いをかけられ、投獄される。1872年、すでに無罪とされていたことを知らないまま、亡くなった。

── 祈り ──

…教会の範型…

神の母マリア、全く純粋な方
マリア、イエスの母

私はあなたの愛されるものの
全く完全な範型
聖なる教会
諸聖人の交わり
カルメルのおとめ

…教会のために…

教会よ、私はあなたに自分自身をささげます、あるがままの私を
今所有しているすべてのものと共に
この生涯中、そして、永遠に

…マリア…

マリアよ、あなたはすべての徳の
基準であり、範型、
鏡であり、支えであり、堅固な力です。

* * * * * * * * * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites （Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ http://www.ignatius.com）の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列 17:3−4）」ということばに由来しています。

（泰阜カルメル会訳・編）

和解

蛭田幼一

私の口から出たことばが　人の心を痛めた
かつて別の人のことばが　私の心を痛めたように

氷雨が窓ガラスにあたる夜（よ）
私は目醒めて　悔悛のことばを刻む
日のあかるい間　罪は眼前にあり
鬱然たる愁いにも沈んだけれど

氷雨ふる夜（よ）は深く　魂を鎮める
明くる日はどんより曇った寒い日

鴉が鳴く坂道を　朝（あした）は上り　夕べは下る
いかなる罪も神の愛には及ばず

今夜　この家に　活気に満ちたことばが飛び交い
食卓には笑いが絶えない

私がみる多摩川の今昔(こんじゃく)　　Sr．熊田　照子

私は、町田市つくし野にある私達の修道会の幼稚園のお母様方のクラスの為に、少なくとも毎週２回は田園都市線を往復します。もうかれこれ２０年以上にもなるでしょうか。…………その時必ず出会うのが、この多摩川なのです。しかもまた、この川の畔にあるカルメル会の上野毛黙想の家に、これまた２ケ月に１度位行われる“聖書深読黙想会”行きも、多摩川にご縁があるのです。３階の南側に部屋がとれようものなら、講話と祈りの時間はさておいて、窓側に椅子をおいて、神様に身を委ねながら、そこはかとなく川と対話するのが１つの楽しみになってしまいました。

その多摩川に関して、何といっても忘れられない一事件は、確か小学５年生頃のことだったと思います。受持の先生引率の下に、川べりに遊びに行きました。多摩川園の駅を降りると、線路側に小動物園があり、その動物を見た後、お弁当を食べ集合時間を指定されて、あまり遠くに行かないで集合するように言われ、いよいよ自由時間になりました。喜び勇んだ私は、橋を渡って対岸に行こうと、２，３人の親友を誘って、つい川を渡ってしまったのです。今でこそ橋は立派な鉄橋で、東急線と、それと並行して車道が出来ているのですが、当時は電車は通らず、人間も歩いて橋渡りをするようになっていました。

河を渡った、という満足感で意気揚々と帰りの橋の入り口に来た時、ものものしい軍服を着た兵隊さんが、“今、陸軍の大演習中なので通行止めだから、待たないとダメ”と言われました。　待つ、といっても今すぐではない。数時間はかかるでしょう。“サア困った、どうしよう”　２、３人の友達と考えた揚句、渡し舟の船頭さん（当時は渡し舟がありました）に“これこれこういうことで、受持の先生が心配しているから、どうか向こう岸まで乗せて下さい”と嘆願しましたが、当然ダメでした。今なら“ケイタイ”で知らせることもできるのに……そんなワケで、この事件の解決がどうなったかは、ご想像にまかせます。翌日先生に、平あやまりにあやまりましたが、責任者である先生はどんなに心配なさったことでしょう。

その多摩川が、今は渡し舟どころか、あちこちに中州が出来て、草が生え、一見歩いてカチ渡りが出来そうな程に、水量が減ってしまいました。上流で、発電その他で取水してしまうので、あの大川多摩川が枯渇状態になってしまったのです。昔の面影は皆無になってしまいました。

それに対比して、林立してきたのが高層ビルです。駅前の高島屋も含めて、彼岸にも此岸にもマンションや会社のビルが、天をつくように並んでいます。多摩川辺りの車道は、それこそバス、大型トラック、小型車が、早送りの映画フィルムのように、絶え間なく走っています。昔なかった排気ガスが、雲のようになって大空に吸い込まれていきます。

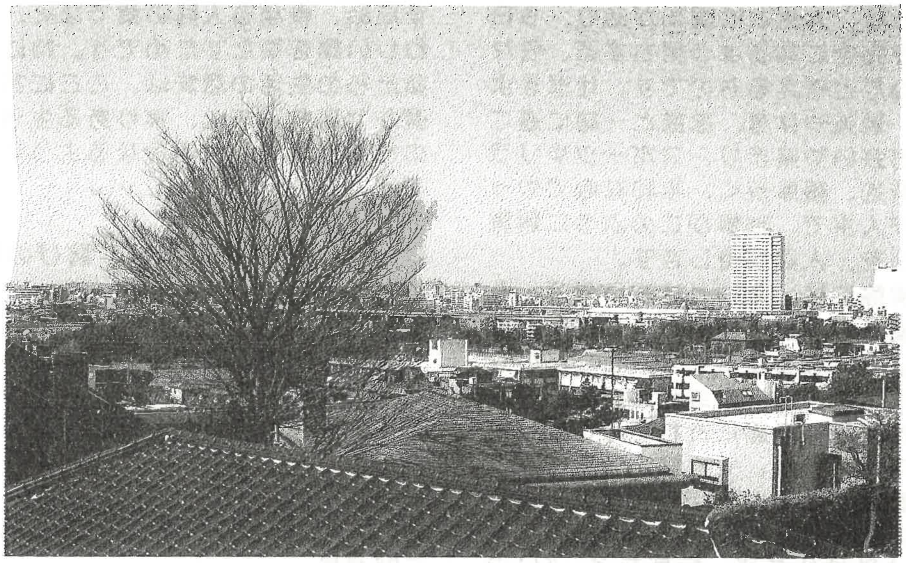
晴れた日には、黙想の家の真正面に、雪を頂いた富士山が立派な雄姿を現すので、排気ガスが風で運ばれてしまった時には、その何とも言えない神々しい姿に、脱帽・敬礼をしたくなる程です。この壮大な景色は、見る人に余裕があるならば、きっと素晴らしい神の営みを賛美できることでしょう。私はこれこそ「神への賛美の祈り」の一つではないかと思っているのです。

ドーンと居座った山と川、そして空の動き。それは何者にも脅かされることのない神の威容を現すものとしか思えません。これに反して人間から生まれる、競争欲の現われ、とでもいうべきあせりの動的な姿とは、全くいい対照ではないでしょうか？

なんでそんなに急ぐの？なんで便利なものだけ追い求めるの？何でそんなに我欲に駆（か）られるの？

自然そのものは、これ程人の心に間（ま）と豊けさを与えてくれるのに……

このようにして、旧約聖書の“バベルの塔”の話の場面が、彷彿（ほうふつ）と浮かんでくるのでした。



黙想の家から多摩川の眺め

いのちの言葉 3月

涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。

（詩編 126・5）

この詩編の言葉は、ご自分の民をバビロン捕囚から解放された、神の決定的で力強い働きを賛美する箇所から取られています。イスラエルの歴史をふりかえってみると、神は、民が落胆して勇気を失い、悪の誘惑に陥りそうになる時、いつも助けてくださるのがわかります。

これは、私たち一人ひとりの人生についても言えることで、地に種蒔く人の胸中に重なるものです。「今は種蒔きに適当な時期だろうか」「ちゃんと芽が出るだろうか」と、人は不安や心配を抱く一方で、待ちに待った刈り入れの時が来ると、喜びを味わいます。

涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。

キアラ・ルービックは、記しています。

「私たちは、人生とは調和があり、今日が昨日より完全になるよう努力する、日々の積み重ねだと考えるものです。仕事をよく果たし、勉強や休息、家族と一緒に過ごす時間、出会いや集まり、スポーツやリラックスの時を、順序良く、平和な心でやっていくのが人生で、物事がこのように順調に進むことを、人は期待します。

しかし実際には、それとは違う形で、私たちの『聖なる旅』は展開します。神が違う形をお望みになるからです。私たちの立てた計画の中に、神ご自身がお望みになることや、神が許して起こされることが、差し込まれていきます。それは、私たちの人生が真に意味あるものとなり、神のご計画に沿って実現するためです。こうして、肉体的苦痛や精神的苦悩、病気など、『いのち』と言うよりは『死』を思わせる多くの苦しみを、人は体験します。

なぜでしょうか。神は死をお望みになるのでしょうか。そうではありません。神が愛されるのは『いのち』です。それは、人がどれほど善や平和のために働いたとしても、想像もつかないほどの満ち満ちた、実り豊かないのちなのです。」[1]

ここで、種蒔く人と刈り取る人の姿が思い起こされます。新たな麦に命を与えるため自らは死に定められている一つの種は、私たちの労苦や苦しみを表していると言えるでしょう。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」[2]とあるように、死んだ種から芽を出した麦の穂の実りを、人は刈り取ります。

「神は、私たちが人生の中で、ある種の死を一度、あるいは幾度も味わうことを望まれます。それは、私たちが実りをもたらすため、単なる人間の業でなく、神にふさわしい業を果たすためです。神にとって、私たちの生活の意味は、ここにあります。豊かで満ち満ちた、実りある生活、神のいのちを反映する生活となるようにすることです。」[3]

涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。

このいのちの言葉を、どのように生きることができるでしょうか。キアラは神のみ言葉に留意しながら、私たちにこう勧めて

---

[1] 「Cercando le cose di lassu'（天のことを求めて）」（チッタノーバ 社・ローマ 1992年　P83－84参照

[2] ヨハネ 12・24

[3] 同1．P84参照

います。
「私たちは、大小さまざまの苦しみ、特に隣人を愛することから生まれる労苦や犠牲に、大きな価値を置く必要があります。それこそ、私たちに特有の務めです」[4]と。いのちは、苦しみから生まれるのです！
たとえすぐによい結果が得られなくても、「一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる」[5]ことがあるのをよく心にとめ、決してあきらめないようにしましょう。「どれほどよい教育を子供にほどこしたとしても、将来はどうなるだろう。」「政治や社会での私の仕事の実りを、誰が認めてくれるのか」といった思いが湧いてきても、投げ出さずにたゆまず善を行いましょう[6]。実りはずっと後になって、別の所で見られるかもしれませんが、きっと生まれるでしょう。
人生の歩みをすすめる私たちの前には、希望と確信、ゆるがぬ目標があります。困難や試練、逆境に押しつぶされそうになる時があるかもしれませんが、それらは、真の幸せと喜びに向かうのに必要な通過点なのです。
キアラは続けて言います。「前進しましょう。一つひとつの苦しみの向こう側を見つめましょう。はっきりしない状況、苦悩や病気、試練だけに目をやって、立ち止まるのではなく、やがて訪れる収穫を見つめましょう」[7]と。

涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる。

22 歳のパトリシアは、大学で法律を学んでいます。しばらく前から、学部長の助手として働いていましたが、こう語っています。「私はこの仕事を始めた時から、業務においていつも向上する努力をしよう、と決心しました。また同僚一人ひとりとの関係を大事にし、相手が『自分は大切にされている』と感じられるようにしたい、と思いました。」
しかしパトリシアは、自分の信じる生き方を貫くため、しばしば流れに逆らう必要があり、そのため仕事を失う危険もありました。「職場で重要なポストにある人が、様々な特権を享受しつつ、明らかに不当な態度を取っているのがわかりました。私は相手にそれを伝えなければ、と思いました。」
パトリシアは、自分の考えをはっきりと言ったために、解雇されました。「そのことで私はひどく苦しみましたが、心は穏やかでした。自分は正しい行動をとったと確信していたからです。」パトリシアは、全能の父なる神が自分を限りなく愛してくださることに強い信頼を置いていたので、意気消沈することはありませんでした。彼女の国パラグアイの経済や雇用状況を考えると、不可能にも思えたことでしたが、解雇された日の夕方に、パトリシアには二つの所から雇用の申し出がありました。彼女が新しく就いた仕事は、前の所よりも好条件で、専門分野により直接関わる内容のものでした。

ファビオ・チャルディ神父
ガブリエラ・ファラカラ

（2007.3）

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

フォコラーレ：
連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
いのちの言葉のホームページ
http://www.geocities.jp/focolarejapan/

---
[4] 同１．Ｐ102 参照
[5] ヨハネ 4･37
[6] ガラテヤ 6･9 参照
[7] 同１．Ｐ85 参照

十字架の聖ヨハネこぼれ話（２）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス OCD

「なぜ泣かれているのですか。兄弟よ、私が泣いているのは、…」（その２）

エル・カルヴァリオの修道者たちの話にもどりますと、食べるものが何もないということが、時々起こりました。

或る日、共同体の食堂に入った時、「食卓にはパンが一つもありませんでした」。

十字架のヨハネ修士はたずねました。

「なぜパンが置いてないのですか」。

「何もないからです」と彼らは答えました。

「あちら行って固くなったパンでもいいから探してくるように」とヨハネは言いました。

そして彼らは固くなったパンのひとかけらを見つけました。ヨハネは食卓の上にそのひとかけらを置いて、祝福しました。「それから食事の代わりに、十字架のヨハネ修道司祭は、そのような貧しさを感謝するよう、そのような貧しさこそ、まさに私たちがキリストにならうために求めていたものだったと、彼らを鼓舞するような短い高貴な説教をしました。こうして各人は自分の修室へもどりました」。ブロカルド修士は、祝福されたパンのかけらがどうなったかは何も記していません。祝福でとても満足してしまったので、食事のことなどどうでもよくなり、だれも食べなかったのでしょう。

修道者たちが各自の修室に退いて二時間ぐらい経ってから、一人の人がロバと共に、修院の玄関にやってきて、十字架のヨハネ修道司祭宛ての手紙をブロカルド修士に渡しました。手紙が渡され、ヨハネがそれを読み始めると、「彼の目から涙があふれ出しました」。門番は彼にたずねました。

「悪い知らせですか」。

「いや」と聖人は答えました。「兄弟よ、私が泣いているのは、この日私たちが長時間断食できないほど悪い者であると主が見なされたからなのだ。だから主は私たちに食べ物を送ってくださったのだ」。手紙には、彼に一ファネガの焼いたパンと一ファネガの小麦粉を送ったとありました。

少し後、その日の午後、ウベダからドン・アンドレス・オルテガ・カブリオとドーニャ・フェリパの召使が「カルヴァリオの修道者のための食料を積んだ二頭のロバと共に」到着しました。パンや小麦粉と一緒に、他の食べ物もたくさんありました。魚や卵などなど。

（続）

カルメル会の企画案内

東　京

カルメル霊性センター主催

２００７年度

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：今こそ信徒を切実に招かれるキリストのみ声
―現代における信徒の霊性―

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩７分）
　　世田谷区上野毛２-１４-２５　カルメル修道会（TEL 03-3704-2171）
日時：下記の各土曜日　午後２時半開始　入場無料（講話の後、主日のミサ）

了 ２月２４日（土）　雨宮　慧（東京教区司祭）
「聖書が語る聖霊」
了 ３月　３日（土）　田畑邦治（白百合女子大学教授）
「世に生きる希望の証し」
了 ３月１０日（土）　大瀬高司（カルメル修道会司祭）
「旅する教会の途上にて　呼びかけられた覚醒、期される覚生」
了 ３月１７日（土）　九里　彰（カルメル修道会司祭）
「世に遣わされたキリストの姿」
３月３１日（土）　中川博道（カルメル修道会司祭）
「世を愛された神と共に世に生きる霊性」

なおカルメル会の司祭による講話は、以下の場所、日時においても行なわれます。
場所：カトリック三馬教会聖堂
　　石川県金沢市三馬３－３２４　カルメル修道会（TEL　076 - 244 - 7788）
日時：下記の各日曜日　**午後１時３０分開始***　入場無料　（*午後２時から変更）

了 ２月２５日（日）　中川博道（カルメル修道会司祭）
「世を愛された神と共に世に生きる霊性」
了 ３月１８日（日）　九里　彰（カルメル修道会司祭）
「世に遣わされたキリストの姿」

霊性センター事務局　Tel(03)3704-2171　Fax(03)3704-1764

東　京

上野毛霊性センター　'07年4月～'08年3月

A　黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1．聖書深読（毎回土曜日　夕食～日曜日16時）

	4月14日～15日	九里彰師
	7月　7日～　8日	九里彰師
	12月15日～16日	九里彰師
08/	2月23日～24日	九里彰師

一日聖書深読（毎回土曜日午前10時～午後4時）

	10月13日	九里彰師
	11月17日	九里彰師
08/	1月12日	九里彰師
	3月15日	九里彰師

2．奉献生活者のための黙想会

7月26日（木）夕食～　8月　4日（土）朝	九里彰師
8月21日（火）夕食～　30日（木）朝	福田正範師
12月26日（水）夕食～08/1月4日（金）朝	福田正範師

3．木曜黙想会　一般黙想（毎回木曜日10時～16時）

	4月12日	私の心は燃えていたではないか	福田正範師
	5月　3日	私はぶどうの木、あなた方はその枝である	九里彰師
	6月28日	思い悩んではならない	福田正範師
	7月　5日	子よ、元気を出しなさい	九里彰師
	10月25日	あなたの信仰が、あなたを救った	福田正範師
	12月20日	お言葉どおり、この身に成りますように	九里彰師
08/	1月31日	主よ、助けてください	福田正範師
	2月28日	見えない者は、見えるようになる	九里彰師
	3月27日	あなた方に平和があるように	福田正範師

4．金曜黙想会　カルメルの聖人（毎週金曜日10時～16時）

4月27日	十字架の聖ヨハネの「無の道」	九里彰師
5月25日	カルメルの父　聖ヨゼフ	福田正範師
7月20日	カルメルの元后　聖マリア	福田正範師
9月21日	アヴィラの聖テレジアの説く「従順」	九里彰師
10月　5日	リジューの聖テレジアが生きた「祈り」	九里彰師

11月　2日　自分に死に、あなたに生きんことを　福田正範師
12月　7日　三位一体のエリザベットの示す「天国」　九里彰師
08/　2月　8日　御復活のラウレンシオ　福田正範師

5. 青年黙想会（男女）　九里彰師　神学生
5月　4日（金）17時受付～　6日（日）16時
11月23日（金）15時受付～24日（土）16時

6. 召命黙想会（男女）　九里彰師、
4月21日（土）～22日（日）・・受付16時から
11月　9日（金）20時～11日（日）・・（9日は夕食を済ませてご参加ください）

7. 大祭日のミサに与かるために
【クリスマス】・・チェックイン午後３時、チェックアウト午前10時
12月24日（月）～25日（火）《講話なし、夕食なし》
【聖週間を祈る】チェックイン午後３時、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。
4月　5日（木）～　8日（日）《講話なし、各食事つき》
08/　3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》

8. 特別黙想会　伊従信子　（ノートルダム・ド・ヴィ）夕食を済ませてご参加ください。
A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて
6月29日（金）20時　～　7月1日（日）
B【私は神を見たい】・・・祈　り
10月26日（金）20時　～　28日（日）

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03−5706−7355
FAX　03−3704−1764
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

B　カルメル霊性研究クラス（九里　彰神父）

＊　十字架の聖ヨハネ『霊の賛歌』⇒『愛の生ける炎』
　３月１４日　「第３５の歌と第３６の歌」
　３月２８日　「第３７の歌と第３８の歌」
　４月１１日　「第３９の歌と第４０の歌」
　４月２５日　『愛の生ける炎』緒言と第一の歌の１６まで
＊　アヴィラの聖テレジア『創立史』
　３月２１日　「はしがきと第１章」
　４月４日　「第２章と第３章」
　４月１８日　「第４章と第５章」

どちらも水曜日夜７：１５～８：４５まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館２階２６号室。無料。

C　祈りの集い（九里　彰神父）

　３月３０日　「あなたたちの中で罪のない人が、まずこの女に石を投げよ。」
　４月２０日　「見ないのに信じる人は幸いである。」

毎月一回金曜夜７：１５分より。上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。
７：１５～８：１５　み言葉と念祷
８：１５～８：４５　分かち合い（参加自由）

D　東西霊性研究クラス　（九里　彰神父）予告

カルメルの霊性を通して、広く諸宗教の霊性を学ぶため、４月から開講します。
＊　原則として毎月第二金曜日（午後７：１５～８：４５）信徒会館２６号室
＊　各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
＊　第一回　４月１３日『行持上』（道元著『正法眼蔵』岩波文庫第一巻、第十六
＊　発表者：梶川英夫
＊　問い合わせ：　加藤和彦　TEL（０３）３４１８－６８１６

C.Y.C.（カルメル・ユース・クラブ）

キリスト者青年の集い

復活した主に出会う

キリストに出会うということは、どういうことでしょうか。

二千年前、多くの人々がイエスに出会いました。でも、ほんとうに出会ったのでしょうか。

祈りながら、主との出会いについて一緒に考えましょう。

日時：４月３０日（月）振り替え休日
１３：３０～１６：３０

対象：１８歳以上３０歳までの青年男女

スタッフ：カルメル会士

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

東急大井町線上野毛駅下車　徒歩５分

プログラム

１３：３０～	受付開始
１３：４５～	始めの祈り
１４：００～１４：５０	エマオへ向かう弟子たちと復活した主
１５：００～１５：４５	分かち合い
１５：４５～１６：００	イエスのみ心の連祷　　終わりの祈り
１６：００～１６：３０	茶話会
１６：３０	解散

連絡先・問い合わせ

参加ご希望の方は、FAX または E-mail で、住所、氏名、年齢をお書きの上、下記までお送りください。当日、飛び入りで参加されても結構です。

カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ（C.Y.C.）係　Fr.九里（くのり）

〒158-0093　世田谷区上野毛 2-14-25

Tel　03-3704-2171　Fax　03-3704-1764

E-mail　tokyo@carmel-monastery.jp

東　京

２００７年 聖週間　ご案内

4月1日(日)　受難の主日(枝の主日)

4月5日(木)　聖木曜日(主の晩餐)

典礼　19:00～

4月6日(金)　聖金曜日(主の受難)　大斎、小斎

十字架の道行き15:00～

典礼　19:00～(十字架の崇敬と称賛)

4月7日(土)　聖土曜日

典礼　19:00～　洗礼式

4月8日(日)　復活の主日

荘厳ミサ　10:30～ ミサ後祝会　・ たまごの祝別(各ミサ後)

「聖週間、祭日のミサにあずかるために」

個人黙想ご案内

聖週間の典礼、復活の主日のミサにあずかるため、黙想の家で静修の一時をお過ごしになりませんか。

２００７年４月５日（木）夕食～８日(日)朝食

＊　講話は、ありません。各人のテーマによる黙想
　チェック イン　：午後３時から入室可。
　チェックアウト：午前10時（復活の主日）

＊　費用：　１泊　￥５０００　（３食付・１泊から参加可）

＊　お問合せ、お申込み：　Tel.03-5706-7355・Fax.03-3704-1764

上野毛・聖テレジア修道院（黙想）

'07年4月～'08年3月まで　黙想会案内　（宇治カルメル会）

＊＊宇治聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1.聖書深読

①　一泊二日（午後5時～午後4時）

	5月19日（土）～20日（日）	中川博道神父
	7月21日（土）～22日（日）	新井延和神父
	9月15日（土）～16日（日）	中川博道神父
	11月17日（土）～18日（日）	渡辺幹夫神父
08/	3月　8日（土）～　9日（日）	新井延和神父

②　ミニ深読　（午後14時～午後16時）

2月13日（火）　深読スタッフ

2.水曜黙想（午前10時～午後4時）

	4月11日	復活	新井延和神父
	5月23日	聖霊	長岡幸一神父
	6月20日	み心	ベルナルド神父
	7月18日	カルメルの聖母	カルメロ神父
	9月19日	エディットシュタイン	渡辺幹夫神父
	10月17日	アビラの聖テレジア	アロイジオ神父
	11月14日	日常の聖性	中川博道神父
	12月12日	十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/	1月16日	新しくなる	渡辺幹夫神父
	2月20日	聖書の祈り	新井延和神父
	3月12日	主の受難	カルメロ神父

3.四旬節黙想（午後5時～午後4時）

08/　2月9日（土）～2月10日（日）　カルメロ神父

4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

12月1日（土）～12月2日（日）　渡辺幹夫神父

5.聖テレーズの黙想　（午後5時から午後4時まで）

9月30日（日）～10月1日（月）　伊従信子

6.一般のための黙想会（修道者も可能）

4月28日（土）～5月5日（土）　中川博道神父

7.日曜黙想会（午前10時～午後4時）

6月10日	渡辺幹夫神父
10月　7日	渡辺幹夫神父

京　都

8.奉献生活者の黙想（午後５時～午前９時）

8月　2日（木）～　8月１１日（土）	中川博道神父
8月１８日（土）～　8月２７日（月）	渡辺幹夫神父
１０月２０日（土）～１０月２９日（月）	渡辺幹夫神父
１２月２７日（木）～　１月　５日（土）	カルメロ神父

9.青年黙想会（午前１０時～午後４時）

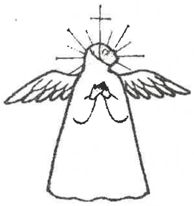
１１月４日（日）　　カルメル宣教修道女会　中川博道神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

＊申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016　FAX　0774-32-7457



「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ28：20)と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみてはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了	第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父	(上野毛修道院)
了	第2回	2月12日(月)＊祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父	(宇治修道院)
了	第3回	3月21日(水)＊祝	赦しの秘跡	新井延和神父	(宇治修道院)
	第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父	(宇治修道院)
	第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父	(上野毛修道院)
	第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父	(宇治修道院)
	第7回	7月16日(月)＊祝	カルメル山の聖母	新井延和神父	(宇治修道院)
	第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父	(日比野修道院)
	第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス	(宇治修道院)
	第10回	11月23日(金)＊祝	病者の塗油	ベルナルド神父	(宇治修道院)

＊ 時間 AM10:00～PM4：00
＊ 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) ＊聖テレジア幼稚園隣接
　(駐車場は利用できません。)
＊ 費用 1,000円
＊ 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊ 定員 約20名
＊ プログラム
　10：00～ 祈り
　10：40～ 講話【1】
　12：00～12：45 昼食
　12：50～ 赦しの秘跡または短い面接
　13：30～ 講話【2】
　14：45～ ミサ
　15：30～ 茶話会
　16：00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名･住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター一日静修係
〒456－0062 名古屋市熱田区大宝4－5－17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825
または、〒465－0058名古屋市名東区貴船3－2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
3　京　都（毎回土曜日）

４月２１日	奥村豊神父
５月２６日	新井延和神父
６月　９日	渡辺幹夫神父
７月１４日	Ｐ．オヘール神父
９月　８日	新井延和神父
１０月　６日	Ｐ.オヘール神父
１１月１７日	奥村豊神父
１２月　８日	新井延和神父

＊日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場　所：河原町カトリック会館６階又は７階
費　用：各回 2,500 円（昼食代を含む）
時　間：午前１０時～午後４時　　持参品：聖書・筆記用具・ノート
申し込み・問い合わせ　*（お申し込みは、各回３日前までに）*
〒604-8006　京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内　聖書委員会
ＴＥＬ：075-211-3484　　ＦＡＸ：075-211-3910

4　名古屋聖書深読会

４月１４日（土）　日比野カトリック教会　　新井延和神父
５月１９日（土）～２０日（日）　宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
中川博道神父・奥村一郎神父
１０月　６日（土）　日比野カトリック教会　　中川博道神父

＊　毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
＊　定員 21 名　申し込みは FAX かハガキでお願いします。
＊　コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら１泊２日のコースがあります。
＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキか FAX で、氏名、住所、TEL を記入の上開催の３日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058　名古屋市名東区貴船 3-2115　　小林　厚・晃子
TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 17,900 円（4、7、10、１月に納入）　継続の場合は 15,950 円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2　有光信子さんのグループ

①　通信・・参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはいないので、コメントや解読はない。

費用：１回 300 円　　年 10 回 3,000 円

②　ミニ深読（午後２時～４時）毎月第４木曜日（８月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033　西宮市高木東町 31-20-504　有光信子

ＴＥＬ／ＦＡＸ　0798-67-8132

3　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ

ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543

Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 323（2006年冬号）　「今日の霊性」

＊ 聖霊の光のもとに　－聖書と教父(4)　…高橋正行
＊ 祈り(13)　…チプリアノ・ボンタッキョ
信仰による照らし　－第四講話(第一部)　…フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(4)
—『霊魂の城』を中心にして　…九里　彰
三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって(4)光、愛、いのちへ　…伊従信子
エディット・シュタインの神への道行き(2)
—アビラのテレサとの邂逅とその影響　…須沢かおり
愛で生きる(3)　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(15)　—全存在をかけて祈る　…伊従信子
＊ 石牟礼道子の作品に見られるキリスト教(3)
・・・『十六夜橋』のコスモロジーと「原罪」　…谷口正子
愛の断章(2)　…奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 324（2007年春号）　「今日の霊性」

＊ 聖霊の光のもとに　－教父たちの教えと生き方(5)　…高橋正行
「向こう岸に渡ろう」　－マルコ福音書4章35～41節　…九里　彰
ハンナの祈る心　－サムエル記一章より　…中川博道
＊ アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(5)
—『霊魂の城』を中心にして　…九里　彰
愛で生きる(4)　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(16)—あなたの信仰を信じなさい…伊従信子
カルメルの馨り(8)　～結実へ～OCD日本創立に向けた具体的な動きⅠ…大瀬高司
エリザベットの「魂のこだま」、ギット　－信徒の生き方を探る　…伊従信子
＊ 言わなかった”思い”たち　…森　みさ
愛の断章(3)　…奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356）

待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『霊魂の城』（ドン・ボスコ社）

諸所の企画案内

CWC 企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山霊性交流センター

ノートルダム教育修道女会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

今年は、**「聖書深読入門」**を行ないます。

講師：九里　彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館４階第８会議室　時間：午前１０時３０分～１２時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

２００７年

４月１７日（火）注意！４月 10 日から変更

５月　８日（火）

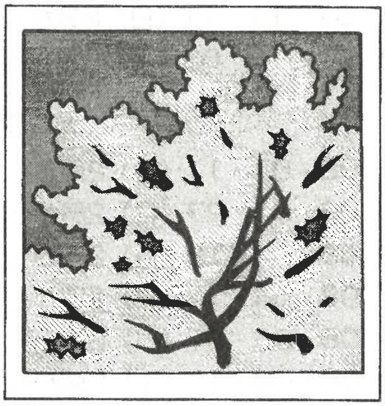
６月１２日（火）

７月１０日（火）

１０月９日（火）

１１月１３日（火）

１２月１１日（火）



８月９月はお休みいたします。

方法

１．まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。

２．その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。

３．「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
（無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもＯＫ。）

４．「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解読」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。
◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。
◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了お願いします。
◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり　内観瞑想センター」
藤原神父　FAX　072・802・5026
予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★2007年度★

M1	07・05・17（木）2時から	05・23（水）2時まで	盛岡・白百合・シャルトル
K3	07・06・03（日）2時から	06・09（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
P2	07・06・17（日）2時から	06・23（土）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
N1	07・06・26（火）2時から	07・02（月）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
Y2	07・07・22（日）2時から	07・28（土）2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
P3	07・08・10（金）2時から	08・16（木）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	07・09・09（日）2時から	09・15（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
B2	07・10・17（水）2時から	10・23（火）2時まで	札幌・厚別・ベネディクト
N2	07・11・02（金）2時から	11・08（木）2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
K5	07・11・11（日）2時から	11・17（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
P4	07・12・03（月）2時から	12・09（日）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会

★2008年度(決まっている会場)★

M1	08・01・11（金）2時から	01・17（木）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27（日）2時から	02・02（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10（月）2時から	03・16（日）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13（日）2時から	04・19（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01（日）2時から	06・07（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13（土）2時から	09・19（金）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28（日）2時から	10・04（土）2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30（日）2時から	12・06（土）2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09（火）2時から	12・15（月）2時まで	東京・小金井・聖霊会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて
参加費は1万円

・2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日
10時から3時まで・シスターかんな
電話　098・866・8293

★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い
聖母訪問会・三浦修道院にて
4月29日（日）、6月10日（日）
問い合わせ　小倉
FAX　045・824・1462

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

キリスト教 入門講座	金曜日　18時45分～20時30分　聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
キリスト教 理解講座	毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分　聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール キリスト教の基礎知識を持っている方。２年間のコース。 信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
聖書研究会	木曜日　12時45分～13時25分　上智大学7号館316号研究室 学生のどなたでも。新約聖書を１章ずつ読んで勉強します。
坐禅会	●月曜日　17時20分～20時10分 ●木曜日　18時～20時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。祝日を除く。 ３回坐り、間に講話があります。 どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
接心	●　4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時 6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分 10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時　（以上）秋川神冥窟。1泊2400円程度。 2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分　上石神井。5600円程度。 ●　5月12日(土)13時～13日(日)16時 8月1日(水)17時30分～7日(火)13時　（以上）宝塚市
ミサ	水曜日　17時10分～18時　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂 どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
黙想	●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日　18時45分～20時　聖イグナチオ教会マリア中聖堂 どなたでも。但し８月14日は休み。8月28日は上智大学内クルトゥルハイム聖堂。 12月25日(火)はクリスマスの黙想 (予定)。 ●水曜日　18時～18時30分　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂 どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み) ●通う霊操　8月18日(土)～8月26日(日)　18時～21時　上智大学内クルトゥルハイム聖堂
祈りの集い	●下記の土曜日　13時30分～16時　上智大学内S.J.ハウス第５会議室 講話、黙想、ミサがあります。 4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、 2008年1月12日、2月2日、3月15日 ●ロザリオの祈り　同日16時10分～16時50分　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂
黙想会	5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、 2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
アガペ会	下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ (14時～18時)　上智大学内S.J.ハウス第５会議室 4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)
クリスマス会	12月15日(土) 17時～　聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ	12月23日(日) 14時～　上智大学内クルトゥルハイム聖堂
問い合わせ・ 連絡先	クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授） 〒102-8571　東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス 電話　03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056 http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html

リーゼンフーバー神父　キリスト教入門講座
2007～2008年

このクラスでは、開かれた雰囲気の中で人生の問題に対する聖書の答えを聞くことを通して、キリスト教の教えを包括的に学び、信仰に基づいた生活態度の形成を目ざします。（受講は無料です）

日時　毎週金曜日　18時45分～20時30分

場所　カトリック麹町聖イグナチオ教会　信徒会館3階アルペホール　電話 03-3263-4584
JR中央線・総武線・地下鉄丸の内線・南北線　四ツ谷駅徒歩１分

対象　キリストの教えを学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方。
どなたでも歓迎です。キリスト教の予備知識は必要ありません。

内容　1時間半の講話では、人間のあり方と現代的な問題意識から出発して、聖書のメッセージを徹底的に取り上げ、キリスト教を理論的にも実践的な意味からも説明します。また、黙想会などを通して祈りや信仰体験を深める機会もあります。１年間の講座を通してキリスト教の基本的な教えの全体をテーマ別に取り扱います。裏面のように１年間のプログラムになっていますが、中途参加をされても結構です。また、その日のテーマに興味を持たれた場合は、どうぞお出かけください。なお、このクラスは受洗を希望する方にとって、十分な準備となります。

講師のプロフィール

1938年	ドイツに生まれる
1958年	イエズス会入会
	哲学・神学を学ぶ
1967年	ミュンヘン大学卒業
	哲学博士、同年来日
1971年	司祭叙階
1989年	神学博士
現在	上智大学文学部哲学科教授
	元放送大学客員教授

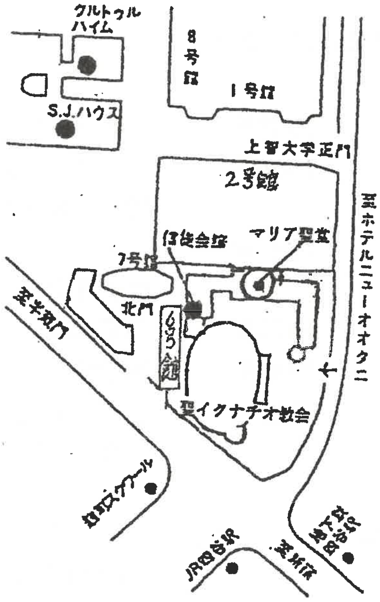
連絡先　クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町７-１ 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124（直通）、5111（伝言）、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html

リーゼンフーバー神父　キリスト教入門講座　2007～2008年

日時　毎週金曜日　18時45分～20時30分
場所　聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール　電話03-3263-4584

各　回　の　テ　ー　マ

4/13　信仰の道ー人生の意味を問う
4/20　聖書の人間像ー人間の現状と使命
4/27　旧約聖書の神体験―聞くことと見ること
5/11　神認識の道ー理性と経験を通して
5/18　創造された世界ー人間存在の根拠と自然の意味
5/19-20●黙想会
5/25　歴史と信仰ー神と人間との出会い
6/1　新約聖書の神理解ー主なる父
6/8　祈りによる神理解ー神の偉大さと近さ
6/15　救い主の役割ー人類の待望
6/22　神の国ーイエスの告げるメッセージ
6/29　イエスの生き方ー神に遣わされて人に仕える
7/6　イエスの人間関係ー罪人と弟子と共に
7/13　イエスは誰かーイエスの自己理解
7/20　最後の晩餐ー自分を与えるイエス
7/27　イエスの受難ーその史実と意図
7/28　感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
8/3,10　○休み
8/17　イエスの死ーその救済的意味
8/18-26●通う霊操（18-21時）
8/24　聖書のイエス像ーヨハネの見たイエス
8/31　イエスの復活ー今に生きるイエス
（8/17～8/31：上智大学内クルトゥルハイム2階）
9/7　聖霊ー神の愛に導かれる
9/14　祈りの本質とさまざまな祈り方ー神と関わる
9/21　洗礼と堅信ーイエスに結ばれて生きる
9/22-24●黙想会
9/28　教会の成立と意味ーイエスを中心に集う
10/5　人間としてのイエスー新しい人間像の基礎付け
10/12　御子としてのイエスーイエスの神との関係
10/19　父と子と聖霊ー神の生命に与る
10/26　信仰の決断ー支えられて生きる
11/2　○休み
11/9　ミサ祭儀ー神への奉仕と生活の糧
11/16　自己実現と神の意志ー生き方の規範
11/30　人間の弱さー罪とは何か
12/1-2　●黙想会
12/7　恵みとゆるしー神の憐れみを受ける
12/14　愛の心ーキリスト教の本質
12/15　クリスマスのミサとパーティ（教会信徒会館ヨセフホール）（予定）
12/21　隣人愛ー他人のうちにイエスに出会う
12/23　ミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
1/11　希望を持つ勇気ー未来に向かって歩む
1/18　霊の動きー福音による生き方
1/25　聖書と教会ー信仰の基盤になる言葉
2/1　秘跡と教会生活ー毎日を養う信仰
2/8　神の言葉ー神との日常的な対話と黙想の仕方
2/15　結婚と独身ー愛の道
2/22　仕事という召し出しー教会と社会に寄与して働く
2/29　人間の苦悩ー悪とは何のためか
3/7　死ーその実現と克服
3/8-9　●黙想会
3/14　人生の完成ー神の内に生きる
3/21　○休み
3/23　復活祭。感謝のミサ（14時、上智大学内クルトゥルハイム2階）
3/28　聖母マリアー信じる者の原型



リーゼンフーバー神父　キリスト教理解講座
2007～2008年

日時　毎月第１・第３・第5火曜日　18時45分～20時30分

場所　カトリック麹町聖イグナチオ教会　信徒会館3階アルペホール　電話 03-3263-4584
JR中央線・総武線、地下鉄丸の内線・南北線　四ッ谷駅徒歩１分

対象　キリスト教についての基礎知識をもち、信仰をより深く考えたい・理解したい・
生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容　人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ徹底的に知るよりも、優れた道はないでしょう。本講座では信仰の中心的な諸テーマを解明することを通して、その基盤と意味を探求し、理論的理解を深めるとともに信仰生活に指示を与え、充実した祈りへの道も開きます。現代の問題意識を常に背景にしながら、聖書を元に、古代と中世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人間論的・神学的・哲学的な観点から展開します。専門的な知識は前提とされませんが、入門講座程度の基礎知識は必要です。２年間の計画になっていますが、本年度は信仰の実践に重点を置き（裏面を参照）、次年度は信仰の内容を取り扱う予定です。
途中参加・部分参加も可。講座は無料です。

講師のプロフィール

1938年	ドイツに生まれる
1958年	イエズス会入会
	哲学・神学を学ぶ
1967年	ミュンヘン大学卒業
	哲学博士、同年来日
1971年	司祭叙階
1989年	神学博士
現在	上智大学文学部哲学科教授
	元放送大学客員教授

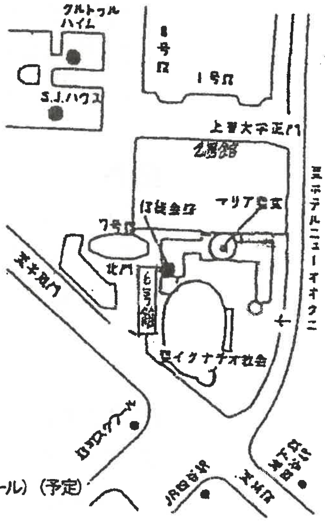
連絡先　クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町７-１　上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124（直通）、5111（伝言）、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html

リーゼンフーバー神父　キリスト教理解講座　2007～2008年

日時　第1・3・5火曜日　18時45分～20時30分
場所　聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール　電話03-3263-4584

毎　回　の　テ　ー　マ

4/3	［倫理の基礎づけ］	人間の尊厳――自立と自己実現
4/17		神の似姿――自己超越と善なる神
5/1		○休み
5/15		人生の目標――神への愛による幸福
5/19-20		●黙想会
5/29		人間以外のものの意義――世界の使用と聖化
6/5		創造と救い――イエスのまねび
6/19	［倫理的行為］	善い行為の規範――人間の本性と神の意志
7/3		人間的行為――自由と良心
7/17		性格の形成――徳と感情
7/28		感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
7/31		人間の弱さ――誘惑と罪
8/7		魂の癒し―恩恵･回心･ゆるし
8/18-26		●通う霊操（18―21時）21日は振替
		（上記2回：上智大学内クルトゥルハイム2階）
9/4	［根本的態度］	人生を生きる基盤――信頼･信仰･希望
9/18		課題の中心――愛による完徳
9/22-24		●黙想会
10/2		真理と善の実現――判断･勇気･節制
10/16		共同体と社会の建設――共通善･正義･愛
10/30		個人の道――聖霊の導きとカリスマ
11/6	［日常生活］	対人関係の意義――出会いと協力
11/20		身体と生命――性と生命倫理
12/1-2		●黙想会
12/4		家庭と独身生活――与えられた道の発見と深化
12/15		クリスマスのミサとパーティ（17時、教会信徒会館ヨセフホール）（予定）
12/18		仕事と余暇――能力の活性化と人への奉仕
12/23		ミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)
1/15		困難と苦しみ――その受け入れと克服
1/29	［信仰生活］	教会生活への参加――救いのしるしと典礼の意味
2/5		秘跡の恵み――ミサと告解
2/19		祈りの本質と諸形態――神との個人的な関わり
3/4		深遠な神秘への接近――黙想の意味と仕方
3/8-9		●黙想会
3/18		世界に開かれた霊性――活動における観想
3/23		復活祭。感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階)



禅

坐禅会

月曜日　：17時20分～20時10分
木曜日　：18時～20時30分　　　　　　（祝日を除く）
場　所　：上智大学内クルトゥルハイム１階正面左の部屋
３回坐り、間に講話があります。
初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接　心　2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時
（以上）秋川神冥窟　1泊2400円程度
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

関西

5月12日(土)13時～13日(日)16時　　宝塚市 ②
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時　　宝塚市 ①
連絡先　① シスター田中　電話 0797-84-7863
　　　　② 岸本 正　　　電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先:
クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部教授）
〒102-8571 千代田区紀尾井町７－１上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

黙想へのお誘い

「会社帰りの 黙想（メディテーション）」

――あわただしい毎日に平安のオアシスを――

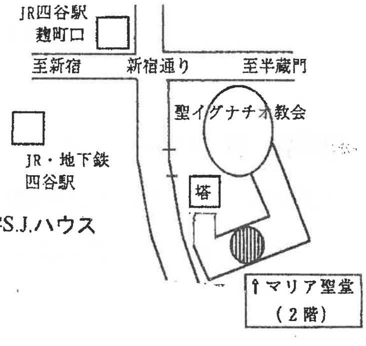
月２回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひとときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第２・第４火曜日　18:45～20:00
但し８月14日休み、８月28日上智大学内クルトゥルハイム聖堂
12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)
東京都千代田区麹町６－５　TEL.03-3263-4584
(JR、地下鉄四ッ谷駅からすぐ)



指導司祭プロフィール
クラウス・リーゼンフーバー(Klaus Riesenhuber)
1938年生まれ、1967年来日
イエズス会司祭、哲学・神学博士
元放送大学客員教授
現在、上智大学文学部哲学科教授
連絡先：〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス
TEL.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html

真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い（午前 10 時～午後 3 時）

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

了　1 月 11 日（木）聖ダミアノの十字架のもとで祈った
　　　　　　　　　　聖フランチスコ
了　2 月　8 日（木）十字架に釘づけられたキリストの体
了　3 月　8 日（木）キリストの受難と死
　　4 月 12 日（木）死に勝たれたキリストの姿
　　5 月 10 日（木）イエス様の十字架のもとに
　　　　　　　　　　立っておられるマリア様
　　6 月 14 日（木）十字架につけられたキリストの御顔
　　7 月 12 日（木）　　〃　　　　　　　（続き）
　　9 月 13 日（木）三位一体の栄光を表す十字架
　　10 月 11 日（木）十字架につけられたキリストを
　　　　　　　　　　囲んでいる人々
　　11 月　8 日（木）十字架を担ってキリストに従う
　　12 月 13 日（木）十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父　（院長）

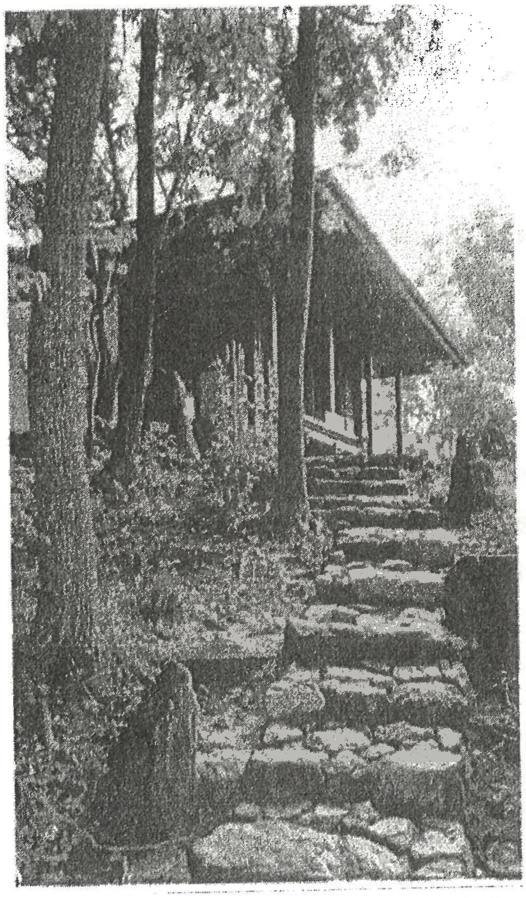
シスター　マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

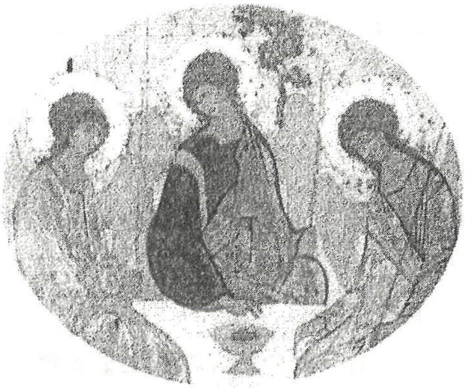
申し込み先
〒 865-0133
熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

真命山

諸宗教対話・霊性交流センター



真命山の霊性

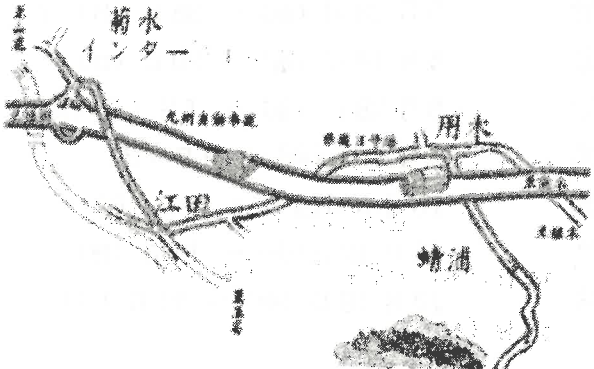


自然
神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで
祈り

静けさ
沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かつ
交わり



ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院

◎ 所 在 地：〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1

Tel：　077-579-7580

Fax：　077-579-3804

Eメール：　nd-inori@mbr.nifty.com

◎ 交　通：　JR京都駅から湖西線で「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日　程：

A.　8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2006年12月27日（水）～ 2007年1月4日（木）了

② 2007年2月20日（火）～ 2月28日（水）了

③ 7月23日（月）～ 7月31日（火）

④ 8月18日（土）～ 8月26日（日）

⑤ 9月1日（土）～ 9月9日（日）

B.　週末3日間の個人指導による祈りの体験（神との親しさの中で日常を生きるために）

初日は、17時のミサで始まり、最終日は13時30分のミサで終わります。

⑥ 2007年1月19日（金）～ 21日（日）了

⑦ 2月2日（金）～ 4日（日）了

⑧ 4月13日（金）～ 15日（日）

⑨ 5月11日（金）～ 13日（日）

C.　3日間の週末個人黙想　（週末に個人黙想をなさりたい方のため）

他の黙想会が行われている場合があります。

⑩ 2007年2月23日（金）～ 2月25日（日）了

⑪ 3月2日（金）～ 4日（日）了

⑫ 3月23日（金）～ 25日（日）了

⑬ 5月18日（金）～ 20日（日）

⑭ 6月29日（金）～ 7月1日（日）

⑮ 9月7日（金）～ 9日（日）

⑯ 10月5日(金)　～ 7日（日）

⑰ 10月12日(金) ～ 14日（日）

⑱ 10月19日（金）～ 21日（日）

⑲　　　11月　2日（金）～　4日（日）

D.　霊性プログラム：ワークショップ　（自己発見から神へ）

⑳　2007年3月22日(木)　～　29日(木)　了

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎　**対　象：**信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　**担当者：**　トニー・ブロードニャック師（メリノール宣教会）と　シスター　が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎　**受　付：**　受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎　**申込先：**　郵送、または、Fax　でお願いします。

郵送：　〒520-0106　大津市唐崎　1丁目3－1　ノートルダム修道院

Fax：　077-579-3804

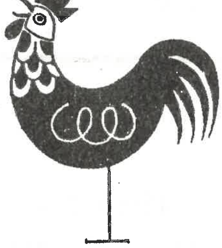
1) 名前　2) 住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎　**問い合わせ：**　電　話：　077-579-7580　または、

Eメール：　nd-inori@mbr.nifty.com「件名は黙想」でお願いします。



コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

一日黙想会のご案内

テーマ；<u>聖書に見られるマリアの姿</u>

指　導；河合恒男神父様（サレジオ会）

日　時；5月20日（日）10：00～16：30　受付　9：30から

場　所；コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

対　象；男女信徒・求道者（年齢を問わず）

会　費；2，000円（お弁当代を含む）

申し込み；5月13日（日）まで。

定　員；80名

電話；0424－82－2012

FAX；0424－82－2163

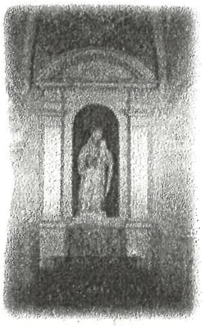
＊当修道院は、新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩で20分
　タクシーで5分　下石原3丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地です。

いのちの泉へ

＊すべての人のための祈りの集い＊

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師
帰天４０周年記念　特別プログラム

「わたしは神を見たい」
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師の
生涯と教えから



２００７年4月２１日（土）
参加費２００円
講話　　伊従信子　・　片山はるひ

午後２時より
＊幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師に関する
プレゼンテーション（片山はるひ）
＊講話（伊従信子）＊お茶＊分かち合い＊祈り
午後６時半頃終了　<u>今回はミサはありません</u>

お申し込み・問い合わせ
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　jndv-jp@r2.dion.ne.jp

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンス宗教研究所

定価各2,100円
（本体2,000円）
四六判・上製・平均240頁

深い信仰と豊かな霊性、
そして透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌。

祈りと思索の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となってなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。

——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎 *Okumura Ichiro* ●カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 **慈悲と隣人愛** （解説）西村惠信
- 第2巻 **多文化に生きる宗教** （解説）ヤン・ヴァン＝ブラフト
- 第3巻 **日本の神学を求めて** （解説）小野寺功
- 第4巻 **日本語とキリスト教** （解説）阿部仲麻呂
- 第5巻 **現代人と宗教** （解説）鶴岡賀雄
- 第6巻 **永遠のいのち** （解説）八木誠一
- 第7巻 **カルメルの霊性** （解説）高園泰子
- 第8巻 **神に向かう〈祈り〉** （解説）髙橋重幸
- 第9巻 **奉献の道** （解説）宮本久雄

聖フランシスコ・ザビエルによる日本開教から四百五十年、途中数々の困難がありながらも、まかれた福音の種は今日まで生き続けています。この地の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索し続けた一人の日本人——奥村一郎。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話におけるダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。あわせて、その柔軟な視点は二十一世紀の今、宗教対立や文化葛藤を乗り越え、寛容を求めるすべての人々への道標となることでしょう。その時と場所で与えられた役割を誠実に果たし続けた著者の足跡をまとめた本選集が、日本の教会と社会で長く受け継がれる財産となることを願ってやみません。

オリエンス宗教研究所

Okumura Ichiro

全9巻の主な内容

第1巻	慈悲と隣人愛	カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行　3月刊
第2巻	多文化に生きる宗教	大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ／アジアにおけるカトリックの現代的課題
第3巻	日本の神学を求めて	日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟
第4巻	日本語とキリスト教	日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳
第5巻	現代人と宗教	現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育
第6巻	永遠のいのち	嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／十字架の秘義／人間と世界と神
第7巻	カルメルの霊性	アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性　4月刊
第8巻	神に向かう〈祈り〉	考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈ることの意味
第9巻	奉献の道	清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5　Tel:03-3322-7601／Fax:03-3325-5322／jimu@oriens.or.jp　http://www.oriens.or.jp

購入申込書

オリエンス宗教研究所刊
奥村一郎選集（全9巻）
各巻定価2,100円（本体2,000円）

第　巻　書名　冊

第　巻　書名　冊

を購入します

ご住所 〒　お電話

お名前

取扱書店

配給元・日キ販

新刊紹介

◆「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

（三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版）

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196

◆「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文　伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊

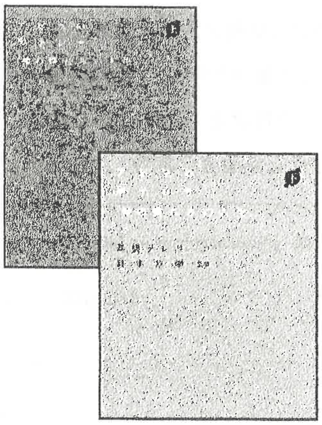
●「三位一体のエリザベット」

－神は私のうちに　私は神のうちに－

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがる

エリザベトの霊性の美しさを記す。



●「神の憐れみの人生」（上・下）

監修　　鈴木宣明

訳　　　高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻　¥840

カルメル会・アビラの聖テレサに関する新刊本。

投稿募集

テーマ：「*キリスト教との最初の出会い*」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリス教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で２枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われます。

投稿規程

＊　締め切り：原則的に**毎月１０日まで**

＊　原稿サイズ：**B5**　左右の余白：**１５mm**

＊　原稿はできる限り**ワープロかパソコンで**おねがいします。

＊　E-mailでの投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。

＊　「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。

＊　「諸所の企画」のコーナーについては、

①主催するグループ名もしくは個人名を明記。

②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。

③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

＊　寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093　世田谷区上野毛2-14-25　カルメル会修道院

Tel(03)3704-2171　Fax(03)3704-1764

＊　「霊性センターニュース」の≪カルメル会の企画案内≫の部分はHPでも御覧になれます。　http://www4.ocn.ne.jp/~carmel

＊　「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数文×２２０円を現金で送ってください。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25　カルメル会上野毛修道院

「霊性センターニュース事務局

献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

＊　献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：００１１０－４－２９７２５０
加入者名：カルメル霊性センターニュース
通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

＊　なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金してくださっても結構です。献金袋は用意されております。

編集後記

先月 24 日、久々に私たちの修道会に新司祭が誕生しました。前の叙階式から数えると、七年ぶりのことで、大勢の方々が参列してくださいました。

ところで、叙階までの道のりは各人各様で、一概には言えませんが、多くの場合、平坦ではありません。この道なのだろうかという迷いや同じことの繰り返しのように見えてくる毎日の修道生活、神学校での６年に及ぶ哲学や神学の勉強等々、さまざまな困難を乗り切って、叙階の秘跡を授かることになります。その時、だれもが感じることは「自分の力ではなかった」ということではないでしょうか。多くの人の祈りに支えられ、またその背後で働いている人間の力を超えた神の働き、聖霊の助けによって、何とかここまで来られたという実感です。

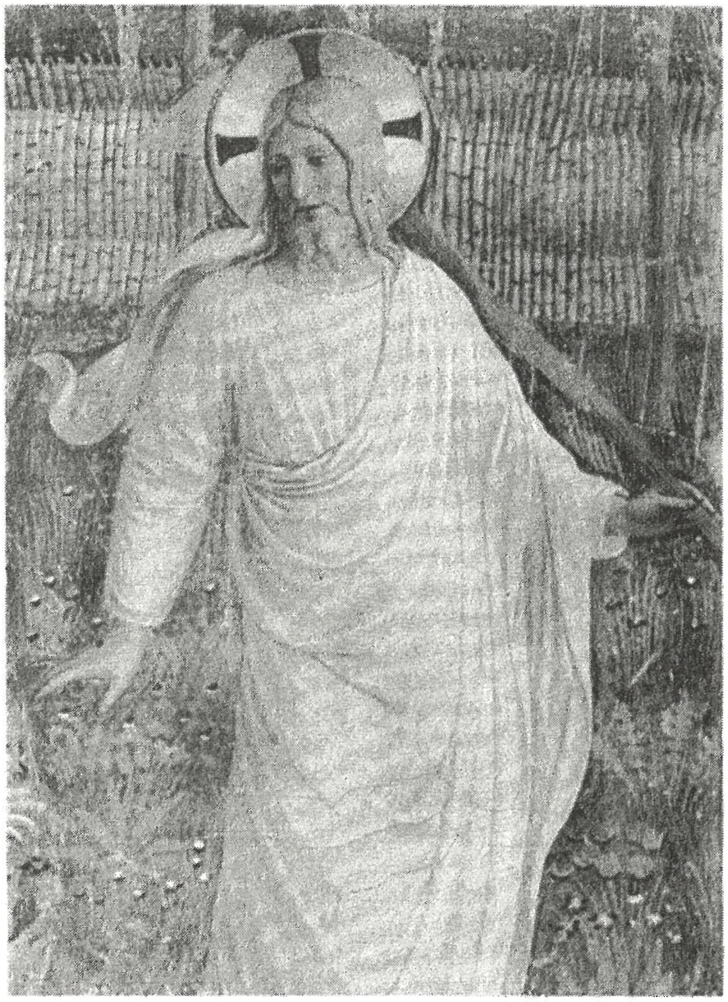
それはまた信仰の原点だと言えるかもしれません。その時、人はもはや自分を誇ることはまったくできなくなるからです。

> 人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によってです。なぜなら。わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです（ロマ 3：28f.）。

それはまた、自分の人間的な限界、弱さ、貧しさ、小ささを認めることでもあり、絶対他力を生きることでもあるでしょう。リジューの聖テレーズは、こう言っています。

> 私は何物にも、また自分のどのような業にも、信頼することができません。…けれどもこの貧しさを意識したことは、私にとって真の光でございました。…徹底的に貧しい者となり、天主様にしか頼ることのできないことは、本当に深い平和を覚えるものでございます（『最後の言葉』）。

（P.九里）



Angelico *Cristo*